

様式 5

平成 29 年度 学術振興基金助成による成果報告書

平成 29 年 10 月 16 日

学 長 殿

所属部局・職名 共生システム理工学研究科・  
学生

申 請 者 名 小林 拓末

助成事業の区分 (該当するものに印)	研究協力に関する事業 (学術出版・叢書・学会等運営・ <u>学会参加</u> ) 学術振興に関する事業 ( <u>学生</u> ・事務職員・その他の特別事業)
事業名	一般社団法人 経営情報学会 2017 年秋季大会
事業実施期間	平成 29 年 9 月 ~ 平成 29 年 9 月
成果の概要	<p>平成 29 年 9 月 21 日(木)・22 日(金)岩手県立大学アイーナキャンパス・いわて県民情報交流センターにて開催された、一般社団法人 経営情報学会 秋季全国研究発表大会に参加し、研究成果を発表した。またそれに際し、4 頁の論文投稿を行った。</p> <p>発表のタイトルは「近年の市場環境変化に対応するためのイノベーション手法に関する考察」として発表した。近年の市場では、成熟化やコモデティ化、デジタル化などの環境変化が生じていることで、企業は持続的に競争優位を確立することが困難となっている。</p> <p>具体的な発表の内容は以下の通りである。</p> <p>多くの企業はモノを生産し販売していた。しかし、市場が成熟化するにつれて、顧客への製品普及率が高まっていることから、このような従来の手法では対応することが困難となっている。また、企業が革新的な製品を市場へと投入するが、そのような製品は競合他社からすぐに模倣されることにより、市場はコモデティ化してしまう。そして近年、デジタル化が急速に進行していることで企業と顧客の接点が劇的に増加している。それにより、従来の顧客管理の手法では対応することが困難となっている。</p> <p>このような変化に対応するために、オープンイノベーションと Service-Dominant Logic を組み合わせることにより、新たな価値創造手法で模倣困難な価値を生み出すための概念的考察を行った。</p> <p>また、学会参加者による近年の市場動向に対しての意見や提示した手法に対しての違う視点からの意見などがあり、議論を交えることで、本研究を今後継続していく上で重要な課題を得ることができた。</p> <p>本学会に参加することは有意義であった。また、研究成果を発表し、議論を交えることで学術的な貢献を果たすことができたと考えられる。</p>